



NEWS

2018 (平成 30) 年度の入試志願者数が史上最高を記録!

学習院大学では、2018 (平成 30) 年度の入試において、2万人突破の史上最高の志願者数となりました。
今回この快挙につながった入試改革を指揮した
学習院大学長に、入試戦略についてインタビューしました。



学習院大学長 *Interview*

**「入試改革」で学習院大学史上最高の志願者数達成。
これからも改革の手を緩めず
多様な価値観を備えた人材輩出に尽力。**

井上 寿一 (学習院大学長)

本来の学びの姿は“教え合い、学び合う”

少子化に伴い 18 歳人口が減少期に入る「2018 年問題」が声高に叫ばれる中、学習院大学は 2018 (平成 30) 年度の入試志願者数において自己最高の新記録を達成することができました。社会における学習院大学の認知度が確実に高まっていることを実感しています。

その大きな理由は、2018 (平成 30) 年度入試より取り入れた入試改革が功を奏したからでしょう。従来の試験日(コア試験)に加え別の日にも受験できる試験日(プラス試験)を設け、受験機会を2回に拡大しました。主な目的は志願者数の増加ですが、背景には学習院大学のアドミッション・ポリシーにもうたわれているように“多様な価値観を持つ視野を獲得できる”大学でありたいということがあります。たとえば文学部・心理学科プラス試験科目は数学・理科・英語で、理系科目に優れた学生の確保をめざしています。教育学科で理系系の教員を養成することも可能になるでしょう。また、日々の授業においても文系・理系の学生が共存することでいい化学反応が生まれます。互いに教え合い学び合う力が育っていく、それが大学に

おける本来の学びの姿です。

学習院の魅力を発信し続ける改革を

今回の入試改革と並行し、学習院大学の魅力を広く発信するために様々な取り組みを実践中です。ここ数年力を入れてきたオープンキャンパスは見事結果が実り、2017 (平成 29) 年度は本学のオープンキャンパス史上最高の来場者数を記録。1 都 3 県以外の高校生へのアピールも積極的におこなっています。すでにスタートしている「目白の杜奨学金」(1 都 3 県を除く優秀な学生 100 名に 100 万円の奨学金を給付) や、オープンキャンパス・バスツアーも試験的におこない、結果が良ければ対応地域を増やしていく予定です。こうした試みの結果、さらに志願者数が増えれば、より優秀な学生の確保につながるでしょう。その先にあるのは学習院大学の明るい未来です。

Profile 井上 寿一 (いのうえ としかず)

学習院大学長
東京都出身。一橋大学社会学部卒業。一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得。法学博士。1993年より学習院大学法学部教授。専攻は近現代日本政治外交史。2014年4月より学習院大学長に就任。

お知らせ

今年も「オール学習院の集い」が開催されます！

春恒例「オール学習院の集い」が、今年も4月15日(日)に開催されます。

学習院サポーターズ倶楽部会員特設ブースは、諸般の事情により設置いたしません、年に一度の楽しいイベントに、ご家族・ご友人お誘い合わせのうえ、ぜひご来院ください。



学習院の

名情景

第2回 東別館(旧皇族寮)

キャンパスに遺る数々の馴染み深い場所をご紹介します。このシリーズ。第2回は、「東別館(旧皇族寮)」です。皇族学生のための寄宿舎であった由来をもつ建物は、2016年まで教室棟として使用されていました。



高い屋根の車寄せと木造の風合いが目を惹く外観

正門を入り林の小径を左方向に進んでいくと、木造二階建て^{さんがわらぶき}の趣ある建物が見えてきます。東別館と呼ばれ、1913(大正2)年に竣工された旧皇族寮です。当時の学習院は、第10代院長^{のぎ}乃木^{まれのすけ}希典(1849(嘉永2)～1912(大正1)年)の意向で全寮制を徹底し第1～6寮を備えていました。遅れて旧皇族寮が完成すると、山階宮武彦王(1898(明治31)～1987(昭和62)年)をはじめとする皇族学生が入寮されました。

表玄関には、御所から通学されていた天皇直系^{じきみや}の方々が乗る馬車のために屋根が高く造られた車寄せが。瀟洒な鑄鉄製の柱に残る桜の院章が歴史を物語ります。中に入ると天井が高く、居室部分の窓には全て欄間が付けられているため明るく開放的。今は改装されていますが当時は板

張りの床に長押や欄間が配された漆喰壁をもつ和風スタイルで、寝室、談話室、皇子殿下^{みこでんか}控室、食堂や浴室(現在は取り壊されている)などがありました。木目の美しい階段、竣工当時の正門にもあしらわれた交差のモチーフの欄間など、旧制学習院の建築設計に携わった文部省技師^{くるまさみち}久留正道(1855(安政2)～1914(大正3)年)の意匠を随所に採り入れ、設計を担当した宮内省内匠寮^{たくみりょう}のこだわりを感じます。総檜の建物は柱や扉などの木の角を面取りするなど細部まで丁寧に仕上げられています。また、基礎も丈夫で関東大震災や東日本大震災の際も壊滅的な被害を受けませんでした。



秩父宮雍仁親王殿下(1902(明治35)～1953(昭和28)年)の馬車での登校風景

目白キャンパス開講当初にあった6つの寮も、旧皇族寮の向かいにあった院長官舎(1909(明治42)年竣工・博物館明治村に移築、現存)も今ではなくなり、残されている旧寮は東別館(旧皇族寮)のみ。当時の面影をよく留めているこの建物を見ると、入寮されていた皇族学生とご学友の姿が目に見えそうです。今上天皇も高等科の学生としてここで学ばれたという由緒ある建物は、2009(平成21)年に国登録有形文化財として登録されました。

取材協力:学習院大学史料館 学芸員 富田ゆり



The Gakushuin Supporter's Club